

12. 教育・研修の視点から考える

People ask me, what special is in my mentorship which has made Malala so bold and courageous and so vocal and poised? I tell them, don't ask me what I did. Ask me what I did not do. I did not clip her wings, and that's all.

—— Ziauddin Yousafzai, the father of Malala Yousafzai (TED talk, 2014 年)

マララをどう育てたのか人々は私に聞いてくる。どうしたら、あんなに勇敢で堂々とした子になるのかと。私はこう答える。私が何かをしたかではなく、何をしなかったかなんです。私は娘の翼を折らなかった。それだけです。

パキスタン出身のマララさんは女子教育の重要性を訴え、史上最年少で2014年ノーベル平和賞を受賞しました。家父長制の因習の根強い地域で、父・ジアウディンさんは教鞭をとり、4歳半からマララさんを自分の学校に通わせました。ジアウディンさんの言葉は重いと思います。

本音
トーク

1 翼を折らない教育を施すことが大切 (幼児・初等教育)

この章を執筆するにあたり、医学部教育から書き、研修医教育につなげていくのか、それとも教育をもっと大きく解釈し、幼児・初等教育から書くのか考えていたときに、マララさんのお父さんの言葉を思い出しました。これからの日本を考えるうえで、すでに翼を折られてきた女性医学生・研修医のケアだけでなく、そもそも「翼を折らない教育を施すことも大切」なのではないかと思います。

本論に進む前に、私の育った環境から少し話をさせてください。

父の海外転勤にともない、5歳から11歳までをアメリカのニューヨーク州で